

## 岩手県野田村の支援・交流活動報告（2014年11月15日）

本日は、早朝から雪が降りつつあるなか、岩手県・野田村に向けて弘前を出発しました。参加者は、市民参加者9名、学生18名、学生事務局2名、教員1名の計30名でした。今回は定期便として、野田村での交流茶話会・タオル帽子作りと子どもたち向けの学習支援ボランティアを予定していました。

花輪サービスエリアでの休憩後、バスの中では自己紹介を行いました。ベテラン・ボランティアである市民参加者の方々の意気込み、初参加の学生ボランティアの不安や熱意など、参加者全員でお互いの抱負を共有しました。その後、学生事務局が作成した活動記録のDVDを上映し、教員事務局から野田村支援・交流活動の経緯、活動内容、および活動にあつての諸注意について、説明を行いました。



道の駅「おりのつめ」での記念撮影

交流茶話会では、赤石先生を講師にお迎えして、タオル帽子作り教室を開催しました。約8名の野田村の方たちが参加してくださり、またボランティア参加者の約15名がタオル帽子作りに参加したため、教室の中は大変活気づいていました。

講師の赤石先生は、一人一人に丁寧に縫い方を教えて回り、野田村の方々もボランティア参加者も、出来上がりを楽しみに、帽子作りに取り組みました。また、学生ボランティアが縫い方が分からずに困っている時は、ベテランの市民参加者の方が教えてくださいました。午後に帽子が完成すると、お茶を用意し、赤石先生が差し入れてくださったリンゴを食べながら、歓談を楽しみました。歓談の間もずっと、出来上がった帽子を被る参加者が多く、やはり手作り帽子の温かさを実感されているようでした。

このニットの手作り帽子は、抗がん剤治療などを受けている患者さんのために、赤石先生が考えられたもので、帽子の内側の頭に触れる箇所にも違和感がないように、継ぎ目や縫い目が工夫されており、病気に苦しむ人々への気配りが隅々まで感じられる優しい帽子でした。

小学生向け児童クラブ学習支援ボランティアでは、総勢 8 名の子どもたちとドッジボールやドミノ倒しなどをしました。ドッジボールでは、子どもたちは思い切り身体を動かし、笑い声を上げて、学生ボランティアとの遊びの時間を楽しんでいました。また、積み木でからくり装置を作ることに挑戦し、一つ一つ試行錯誤を繰り返す子どもたちもいました。中学生向けの学習支援ボランティアにも子どもたちが来て、学生ボランティアとの交流を楽しんでいました。



ニットの帽子作りの様子



手作りニットの帽子



赤石先生(右端)との昼食の様子



児童クラブでの活動の様子

今回の活動において、帽子作りの指導にご尽力くださった赤石先生と帽子作りのためにニット生地を提供してくださった市民ボランティアの方には心より感謝申し上げます。また市民・学生ボランティア参加者のご協力、ドライバーさんとバスガイドさんのご支援により、滞りなく活動を進めることができました。記して、感謝申し上げます。

(担当:栗原由紀子)